



コラージュ:下村佳純

地球いっぱい、笑顔で埋めたい

2005年日本国際博覧会(愛知万博、愛称「愛・地球博」)は25日に開幕する。公式参加の120カ国の人々をはじめ、世界中の人々が、名古屋東部丘陵の長久手、瀬戸の両会場を中心に集う。半年間にわたる笑顔の交流が始まる。

「地球大交流」をテーマにする愛・地球広場には、エキスポビジョンの大画面に各国の人たちの笑顔の写真が1日に7回、計1時間半にわたって次々と映し出される。広告ポスターのアーティストレクターとして活躍する水谷孝次さんが、万博を発表するために半年間、世界を回って撮影してきた「メリー(幸せ)な笑顔」だ。阪神大震災から立ち直ろうとする神戸でも、「9・11」後のニューヨークでも撮った。

ベネチア、ヘルシンキ、モスクワ、パリ、カイロ、ハバナ、ケイプタウン、ナイロビ、フェノスアイレス、ホーチミン、上海、シドニー、バンコク……。「世界の笑顔を探ってみて、貧しい国の人々の笑顔がきれいだと気づきました。日本人の笑顔が心配になっちゃいます」

うれしいときに笑顔がこぼれるのかな。笑顔がこぼれるからうれしくなるのかな。

「うらむことが続いても、笑顔が浮かばばまた元気がわいてくる。難しい問題にぶつかって困っていても、笑顔がこぼれたら、もうすぐ解決しそうに気がする。」

「ほくがカメラを向けるとみんな笑っちゃいます。不思議ですね」と水谷さん。笑顔の配達人は「万博会場でも撮影しますから、みんなとたくさん茶べたさう」と張り切っている。

みんなが笑顔になると、地球も笑顔をみせてくれるかな。